

1 ビタミンB₁₂の代謝について正しいのはどれか。2つ選べ。

- a RNA合成に利用される。
- b 内因子とは結合しない。
- c 回腸末端部で吸収される。
- d ヒトの体内で合成される。
- e トランスコバラミンと結合して輸送される。

2 発熱性好中球減少症について誤っているのはどれか。

- a 重篤になりやすい。
- b 起因菌が同定されないことが多い。
- c 好中球が低下した際に起こす感染症である。
- d 重症感染症により好中球減少をおこす病態である。
- e 起因菌同定前に、緑膿菌までカバーする抗菌薬を十分量投与する。

3 正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 神経筋疾患患者では肺泡低換気が必要である。
- b 死腔換気に伴う呼吸不全では高炭酸ガス血症を伴う。
- c 過換気症候群では発作時に酸素解離曲線は右方編位する。
- d び慢性汎細気管支炎では病初期より慢性呼吸不全を呈する。
- e 肺気腫患者に酸素療法を行う際にはCO₂ナルコースに注意が必要である。

4 低血糖をきたさないのはどれか。

- a インスリノーマ
- b Sheehan症候群
- c ダンピング症候群
- d Prader-Willi症候群
- e インスリン自己免疫症候群

5 排卵期の頸管粘液について、誤っているのはどれか。

- a 無色透明。
- b 牽糸性10 cm以上。
- c 頸管内に0.3 ml以上分泌される。
- d 乾燥後に全体にシダ状結晶を認める。
- e エストラジオールのピークに一致して最大量となる。

6 喫煙との因果関係が最も強い泌尿器科疾患はどれか。

- a 膀胱癌
- b 陰茎癌
- c 腎細胞癌
- d 前立腺癌
- e 精巣腫瘍

7 嚢胞性膵疾患について正しいのはどれか。

- a 粘液性嚢胞腫瘍は男性に好発する。
- b 粘液性嚢胞腫瘍の好発部位は膵頭部である。
- c 3cm以下の粘液性嚢胞性腫瘍は経過観察でよい。
- d 膵管内乳頭粘液性腫瘍の嚢胞は主膵管と交通している。
- e 膵管内乳頭粘液性腫瘍では組織学的に卵巣様間質を認める。

8 閉塞性血栓性血管炎について正しいのはどれか。

- a 高血圧は症状を増悪させる。
- b 飲酒との関連が指摘されている。
- c 血清γ-グロブリン値の上昇を伴う。
- d 四肢末端の難治性潰瘍を生じやすい。
- e 外腸骨動脈から侵されることが多い。

9 多発性硬化症について正しいのはどれか。

- a 男性に多い。
- b 高率に抗核抗体を認める。
- c 視神経が好発部位である。
- d 著明な髄液細胞数増多がある。
- e 頭部MRIで造影効果を認めることはない。

10 急性前骨髄球性白血病の寛解導入時の第一選択薬はどれか。

- a アルキル化薬
- b ビンカルカロイド
- c インターフェロンα
- d 全トランスレチノイン酸
- e チロシinkinase阻害薬

11 気胸をきたしやすい疾患はどれか。

- a 肺胞蛋白症
- b 過敏性肺臓炎
- c サルコイドーシス
- d Goodpasture 症候群
- e 好酸球性肺肉芽腫症

12 無痛性甲状腺炎について正しいのはどれか。

- a 男性に多い。
- b 眼球突出を認める。
- c TSH 受容体抗体陽性。
- d 甲状腺超音波で血流亢進。
- e 甲状腺シンチグラフィでヨード摂取率低下。

13 腸閉塞の原因となるのはどれか。2つ選べ。

- a 大腸癌
- b 大腸憩室症
- c 十二指腸潰瘍
- d S状結腸軸捻転
- e 過敏性腸症候群

14 単純型熱性痙攣について正しいのはどれか。

- a 痙攣に左右差がみられる。
- b 発作は20分以内である。
- c 好発年齢は4～5歳である。
- d 1日に複数回発作を起こす。
- e 髄液検査で軽度の細胞数増多を認める。

15 腹膜偽粘液腫で正しいのはどれか。

- a 本当の腫瘍ではなく予後は良好である。
- b 子宮内膜症との関連が指摘されている。
- c 治療は抗癌剤治療が極めて有効である。
- d 虫垂原発と卵巣原発との鑑別が必要である。
- e 子宮頸管粘液分泌腺が腫瘍性増殖し腹膜播種したものである。

16 精巣捻転につき正しいのはどれか。

- a 60歳代に好発する。
- b 両側同時に発症が多い。
- c 鑑別診断に尿検査は有用である。
- d 経直腸的超音波検査が有用である。
- e 発症から48時間までは経過観察する。

17 誤っているのはどれか。

- a サルモネラ食中毒では発熱が認められる。
- b 腸炎ビブリオ食中毒の原因食品は生の魚介類が多い。
- c ノロウイルスの消毒には次亜塩素酸ナトリウムが有効である。
- d 黄色ブドウ球菌食中毒は食品を加熱処理することにより予防できる。
- e カンピロバクター食中毒の治療にはマクロライド系抗菌薬が投与される。

18 腹部ダイナミックCT写真の動脈相を示す。

病変のある部位として正しいのはどれか。

- a S1とS2の境界
- b S2とS3の境界
- c S3とS4の境界
- d S4とS5の境界
- e S6とS7の境界



腹部ダイナミックCT写真

19 疾患、病態と治療薬の組み合わせで正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 左心不全 ————— アンジオテンシン変換酵素阻害薬
- b 両側腎動脈狭窄 ————— アンジオテンシンII受容体拮抗薬
- c 低カリウム血症 ————— サイアザイド系利尿薬
- d 高カリウム血症 ————— スピロノラクトン
- e 急性心筋梗塞 ————— β 遮断薬

20 58歳の患者。心原性脳塞栓症により、意識障害と四肢麻痺が生じている。生じにくいのはどれか。

- a 仮性球麻痺
- b 誤嚥性肺炎
- c 廃用性筋萎縮
- d 閉塞性動脈硬化症
- e 下肢深部静脈血栓症

21 正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 健康成人の赤血球の寿命は約60日である。
- b ビタミンB12は主に胃の壁細胞で吸収される。
- c 鉄の必要量は1日あたり成人男性で約1mgである。
- d エリスロポエチンは腎臓の傍尿細管間質細胞で産生される。
- e メトヘモグロビンは、ヘム鉄が二価であり、酸素との結合能が高い。

22 急性好酸球性肺炎について正しいのはどれか。

- a 女性に多い。
- b 気管支喘息の既往を有することが多い。
- c 病初期より末梢血中の好酸球増加を認める。
- d ステロイドによく反応するが、再燃も多い。
- e 胸部エックス線検査では、両側びまん性の浸潤影や胸水を認める。

23 高Na血症を最もきたしやすいのはどれか。

- a SIADH
- b Cushing病
- c 先端巨大症
- d 中枢性尿崩症
- e プロラクチノーマ

24 皮膚毛細血管炎を呈するのはどれか。

- a 糖尿病性腎症
- b 紫斑病性腎炎
- c アミロイド腎症
- d 結節性多発動脈炎
- e シェーグレン症候群

25 即時型食物アレルギーの原因検索に最も有用なのはどれか。

- a 食物除去試験
- b 血清総IgE測定
- c リンパ球刺激試験
- d ヒスタミン遊離試験
- e 皮膚スクラッチテスト

26 胃GIST (gastrointestinal stromal tumor) について正しいのはどれか。

- a 放射線治療が有効である。
- b 下血を主訴とすることが多い。
- c リンパ節に転移することが多い。
- d 内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD) が第一選択である。
- e 免疫組織化学染色でKIT (c-kit 遺伝子産物) 陽性である。

27 横隔膜・腹膜・腹壁疾患について誤っているのはどれか。

- a 先天性横隔膜ヘルニアには肺低形成が合併することが多い。
- b 腹壁破裂の予防として妊娠中の葉酸摂取が勧められている。
- c 臍ヘルニアは経過観察あるいは圧迫のみで改善することが多い。
- d 先天性横隔膜ヘルニアや腹壁破裂は胎児超音波で診断可能である。
- e 先天性横隔膜ヘルニアのうち、左Bochdalek孔ヘルニアが80%を占める。

28 不均衡型胎児発育不全の原因となりやすい母体合併症はどれか。

- a 妊娠糖尿病
- b 潰瘍性大腸炎
- c 妊娠高血圧腎症
- d 甲状腺機能亢進症
- e 血小板減少性紫斑病

29 喫煙について誤っているのはどれか。

- a 妊婦の喫煙により早産のリスクが高まる。
- b ニコチン依存症の治療は保険診療の対象である。
- c 喫煙による影響のひとつに慢性閉塞性肺疾患がある。
- d たばこの煙には発がん物質及び発がん促進物質が含まれる。
- e Brinkmann指数とは一年間の喫煙本数に喫煙年数を掛けた総数である。

30 腰椎椎間板ヘルニアでS1神経根が圧迫され、同側下肢の筋力低下がみられた。

障害されると考えられる動作はどれか。

- a 股関節屈曲
- b 膝関節伸展
- c 膝関節屈曲
- d 足関節背屈
- e 足関節底屈

31 転移性脳腫瘍の原発巣で最も多いのはどれか。

- a 肺 癌
- b 大腸癌
- c 乳 癌
- d 腎 癌
- e 胃 癌

32 肺癌の縦隔リンパ節転移によって起こる症候はどれか。

- a 血 胸
- b 嘔 声
- c 散 瞳
- d 徐 脈
- e 胸やけ

33 睡眠時無呼吸症候群でみられないのはどれか。

- a いびき
- b 日中の眠気
- c 集中力の減退
- d 情動性脱力発作
- e 睡眠中の呼吸停止

34 紅皮症を来すことの多い疾患はどれか。2つ選べ。

- a 菌状息肉症
- b 全身性强皮症
- c 尋常性天疱瘡
- d 自家感作性皮膚炎
- e Gibert 薔薇色秕糠疹

35 慢性副鼻腔炎の症状でないのはどれか。

- a 頭 痛
- b 複 視
- c 鼻 閉
- d 後鼻漏
- e 水様性鼻汁

36 エックス線透過性が高い尿路結石はどれか。2つ選べ。

- a 尿酸結石
- b サンゴ状結石
- c シスチン結石
- d シュウ酸カルシウム結石
- e リン酸マグネシウムアンモニウム結石

37 網膜剥離の原因となる病態はどれか。

- a 高眼圧
- b 網膜裂孔
- c 眼位異常
- d 水晶体融解
- e 網膜静脈炎

38 Turner 症候群について正しいのはどれか。

- a 高身長である。
- b 正常卵巣を有する。
- c 手足のリンパ性浮腫を示す。
- d 精神遅滞を伴うことが多い。
- e 高齢出産で生まれる頻度が高い。

39 非定型肺炎の起因菌とその性状の組合せで正しいのはどれか。

- a *Clamydophila pneumoniae* ————— 基本小体で感染
- b *Haemophilus influenzae* ————— 異染小体の形成
- c *Legionella pneumophila* ————— ペロ毒素の産生
- d *Mycoplasma pneumoniae* ————— 封入体の形成
- e *Streptococcus pneumoniae* ————— ストレプトリジンOの産生

40 下痢と腹部膨満感を主訴に来院した患者の新鮮便からラブリジス型幼虫が検出された。

最も感染の可能性が高いのはどれか。

- a 回虫
- b 蟯虫
- c 顎口虫
- d 糞線虫
- e 糸状虫

41 3歳7か月の女児。3歳時の健診で乳房腫大を指摘され来院した。在胎40週、正常分娩で出生した。発達の遅れはない。家族歴および既往歴に特記すべきことはない。身長104 cm (+2.1SD)、体重11.3 kg。外表奇形は認めない。心音と呼吸音に異常を認めない。腹部は平坦で、肝・脾を触知しない。乳房の成熟度はTanner分類のII度に相当する。陰毛と性器出血とを認めない。

成長曲線を作成後、まず最初に行う検査はどれか。

- a LH-RH試験
- b 骨年齢の評価
- c 腹部超音波検査
- d マンモグラフィ
- e 頭部単純MRI検査

42 19歳の女性。バスケットボールの練習中に突然空気飢餓感を感じ、その後呼吸困難、両手指のしびれ、硬直が出現。脈拍104回/分、整。血圧は110/64 mmHg。経皮的動脈血酸素飽和度 (SpO₂) は98%であった。

予測される動脈血ガス所見はどれか。

- a pH 7.40 ± 5 Torr
- b PaCO₂ 46 Torr 以上
- c HCO₃⁻ 24 ± 2 mEq/l
- d B.E. - 2 mEq/l 未満
- e A-aDO₂ 15 Torr 以上

43 48歳の女性。3年前に甲状腺癌に対して甲状腺片葉切除およびリンパ節郭清を施行された。術後の甲状腺ホルモン補充療法は行われていなかった。人間ドックの胸部CTで両肺野に5 mm大の結節性病変を多数指摘され来院した。転移性肺腫瘍と診断し、全身検索を行うも他に異常は認められなかった。甲状腺癌術後の肺転移と診断し、放射線内照射治療の方針となった。血液生化学所見：TSH 5.70 μU/ml (基準0.27~4.20)、F-T3 3.16 pg/ml (基準2.73~4.50)、F-T4 1.24 ng/dl (基準1.00~1.80)、サイログロブリン >1000.0 ng/ml (基準 <32.0)、抗サイログロブリン抗体陰性、抗甲状腺ペルオキシターゼ抗体陰性。

この患者に対する放射線内照射治療で正しいのはどれか。2つ選べ。

- a ¹²⁵Iを用いる。
- b 残存甲状腺切除後に行う。
- c 50%に肺線維症が発生する。
- d 隔離病棟への入院が必要である。
- e 治療前に甲状腺ホルモン薬の内服が必要である。

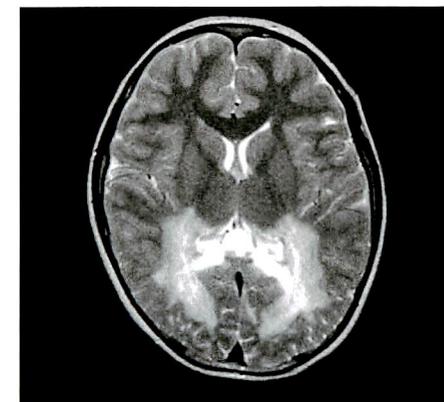
44 8歳の男児。学習の遅れと視覚障害とが顕著になったため来院した。

半年前から多動傾向が出現し、落ち着きがなくなり、会話が混乱することが多くなった。記憶力が低下し、算数の図形の問題が苦手となった。1か月ほど前から急激に視力が低下し、まっすぐに歩くことができず、物にぶつかったり転倒することが多くなり、一人では歩くことができなくなった。視力は両側手動弁の状態、下肢の深部腱反射亢進と両側の足クローヌスを陽性に認め、Babinski徴候は陽性であった。三種混合と麻疹ワクチンは接種済みである。

血中の極長鎖脂肪酸分析で、C24:0/C22:0 1.386 (基準値0.628-977)、C25:0/C22:0 0.061 (基準値0.012-23)、C26:0/C22:0 0.023 (基準値0.003-6)と著明な増加を認めた。頭部MRI検査のT2強調画像を示す。

考えられるのはどれか。

- a 脳腫瘍
- b 脳出血
- c 脳梗塞
- d 亜急性硬化性全脳炎
- e 副腎白質ジストロフィー



T2強調画像

45 56歳の女性。3回経産。子宮頸癌IB2期の診断で、広汎子宮全摘（+両側付属器切除+骨盤リンパ節郭清）術後10日目。術後7日目から尿道カテーテルを抜去し、排尿訓練を行っている。2~3日前から37度台の微熱があり、尿失禁の訴えがある。またリンパ節郭清後の骨盤底に挿入したドレーンの排液は1日あたり100 mlから増量して1,000 mlとなった。

今後の方針として適切なものはどれか。2つ選べ。

- a 飲水制限
- b 尿失禁の詳細確認
- c 排尿訓練の回数増加
- d 下肢リンパマッサージ
- e ドレーン排液性状精査

46 59歳の男性。30年間のアルコール多飲歴がある。アルコール性肝障害のために内科病棟に入院したが、入院2日目の夜にベッドから突然起き上がり、点滴を自己抜去した。病室内を歩きながら、何かをつかまえる動作をふるえる手指で繰り返している。安静を促したが、ぶつぶつと独り言を繰り返すのみであった。

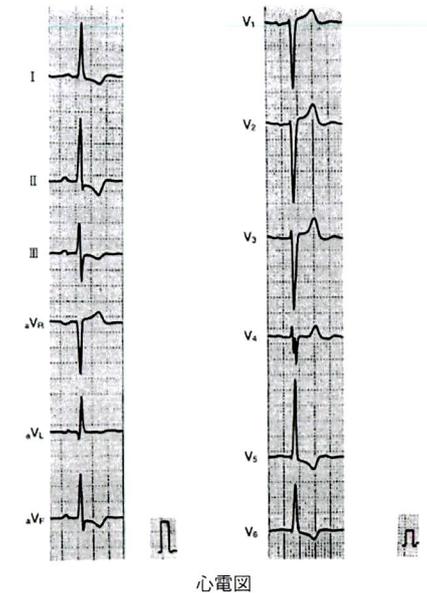
この病態でみられない症状はどれか。

- a 不安
- b 幻覚
- c 睡眠障害
- d 意識障害
- e 眼球運動障害

47 70歳の男性。10年前に心雑音を指摘されたが放置していた。2~3か月前より労作時に動悸と胸痛を感じるようになったために来院した。胸骨右縁第2肋間に3/6度の収縮期雑音と胸骨左縁第3肋間に拡張期雑音を聴取する。心電図および心カテーテル圧データを以下に示す。心臓カテーテル検査では冠動脈造影に異常はなく、肺動脈楔入圧は10 mmHgであった。

この患者の手術適応はどれか。2つ選べ。

- a 動悸
- b 胸痛
- c 左室肥大
- d 肺動脈楔入圧
- e 左室-大動脈収縮期圧較差



心電図



心カテーテル圧データ

48 65歳の男性。右鼠径部の腫瘤に気づいて来院した。日常生活に大きな支障はない。鼠径部リンパ節生検を施行し、濾胞性リンパ腫と診断された。

治療前検査として必要性の低いのはどれか。

- a 骨髓検査
- b 心機能検査
- c クレアチニンクリアランス
- d B型肝炎ウイルスマーカー
- e 便中Helicobacter pylori抗原

49 65歳の男性。健康診断で胸部異常影を指摘され、外来受診した。喫煙は20歳から40本/日を昨日まで続けていた。胸部エックス線写真で左肺門部に5 cm大の腫瘤影を認める。複数回の喀痰細胞診が陽性であった。

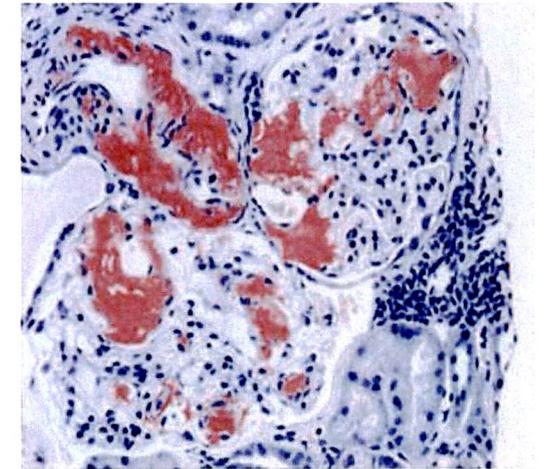
この患者に現れやすい症状はどれか。2つ選べ。

- a 多汗
- b 血痰
- c 嗝声
- d 散瞳
- e 顔面浮腫

50 50歳の女性。ふらつきと両下腿浮腫を主訴に来院した。半年前から5 kgの体重減少がある。その頃より浮腫を認めるようになり、最近では浮腫が増強し、いつもふらふらする感じがある。身長160 cm。体重45 kg。脈拍50/分、整。血圧：臥位110/74 mmHg、立位82/40 mmHg。眼瞼結膜に軽度の貧血あり。胸部聴診で心雑音なし。腹部に肝を2 cm触知する。両下腿に浮腫を認める。尿所見：蛋白3+、糖(-)、潜血(-)、蛋白定量4 g/日。血液所見：Hb 9.7 g/dl、Ht 28%、白血球3,800。血液生化学所見：総蛋白5.0 g/dl、アルブミン2.5 g/dl、HbA1c 4.9%、尿素窒素8.0 mg/dl、クレアチニン0.6 mg/dl。CRP陰性。胸部エックス線検査で心胸郭比45%、肺うっ血は認めない。心電図では低電位を認めた。本例の腎生検Congo red染色所見を示す。

診断はどれか。

- a 膜性腎症
- b 糖尿病性腎症
- c アミロイド腎症
- d 巣状糸球体硬化症
- e 顕微鏡的多発血管炎



腎生検Congo red染色所見

51 24歳の女性。1週間からの全身倦怠感と発熱、咽頭痛を訴えて来院した。既往歴はない。扁桃発赤を認め、白苔の付着がある。前頸部リンパ節腫脹を認める。心雑音なし、呼吸音は清。腹部は平坦で軟、右肋骨弓下に肝を3横指触知する。脾濁音界の拡大を認める。

血液所見：赤血球数386万、Hb 11.4 g/dl、Ht 35%、白血球数12,000 (桿状核好中球9%、分葉核好中球30%、好酸球1%、好塩基球1%、リンパ球45%、異型リンパ球14%)、血小板数13万。生化学検査：AST 192 IU/l、ALT 204 IU/l、LDH 460 IU/l (基準119~229)。

本症の原因となる可能性のある病原体はどれか。2つ選べ。

- a カンジダ
- b A群レンサ球菌
- c アスペルギルス
- d サイトメガロウイルス
- e Epstein-Barr ウイルス

52 60歳の女性。夕食後から出現した強い腹痛を主訴に来院した。数年前から健康診断で胆嚢結石を指摘されていたが放置していた。体温 38.5℃。右季肋部に強い圧痛を認める。血液所見：赤血球 460万、Hb 12.4 g/dl、Ht 35%、白血球 13,300、血小板 35万。血液生化学所見：総ビリルビン 1.0 mg/dl、AST 23 U/l、ALT 14 U/l、CRP 5.5 mg/dl。

初期診断に最も有用な検査はどれか。

- a 腹部MRI検査
- b 腹部単純エックス線
- c 腹部超音波検査
- d 腹部血管造影検査
- e 上部消化管内視鏡検査

53 6歳の男児。白血病と診断されて抗腫瘍薬（L-アスパラギナーゼ）で治療中であった。投与3日目の朝より腹痛と嘔吐が始まり、腹痛が次第に増悪した。体温 37.3℃、顔貌は苦悶状、腹部触診は全体で圧痛と反跳痛、筋性防御があり、腸蠕動は低下していた。血液検査は、白血球数 24,000 μ /l、CRP 18 mg/dl、アミラーゼ 980 単位（基準 37~125）であった。腹部単純エックス線を示す。

この症例について誤っているのはどれか。

- a 重症化しやすい。
- b 血清リパーゼ値が上昇する。
- c ステロイド薬が有効である。
- d 腹部造影CT検査が有用である。
- e 蛋白分解酵素阻害薬が有効である。



腹部単純エックス線

54 60歳の女性。未経妊。51歳で閉経。不正性器出血を認め、産婦人科を受診。子宮頸部細胞診で異常を認めなかったが、子宮体部細胞診はクラスV（腺癌が疑われる）との結果であった。超音波では、子宮の大きさや卵巣には異常を認めなかったが、子宮内腔には隆起性病変を認めた。子宮内膜組織診で組織はわずかに採取できたが、明らかな悪性所見は認めなかった。

今後の方針として適切なのはどれか。2つ選べ。

- a 経過観察
- b 子宮鏡検査
- c 腹腔鏡検査
- d コルポスコピー
- e 子宮内膜全面搔爬

55 50歳の女性。昨年長女が結婚した頃より、月経が不順となった。その頃より、めまい、発汗、動悸を認め、何となく漠然とした不安を常に感じ、最近では夜もよく眠れず、食欲や意欲も低下している。

考えにくい疾患はどれか。

- a うつ病
- b 適応障害
- c 更年期障害
- d パニック障害
- e 甲状腺機能低下症

56 35歳の女性。顔面の紅斑を主訴に来院した。1年前から光線過敏に気付いていた。1か月前より顔面に皮疹が出現し徐々に増悪した。数日前より発熱と両側の手関節の関節痛がみられるようになったため受診した。受診時の顔面の写真を示す。顔面以外に、頭部のびまん性脱毛、上腕には固着した角化性鱗屑と毛孔性角栓を伴う隆起性紅斑（円板状皮疹）、前腕と下肢には網状皮斑（リベド）、手指には凍瘡様の紅斑と爪囲紅斑を認めた。

この疾患の診断に最も有用な皮膚症状はどれか。

- a 頭部のびまん性脱毛
- b 上腕の隆起性紅斑
- c 前腕の網状皮斑
- d 手指の凍瘡様紅斑
- e 手指の爪囲紅斑



顔面の写真

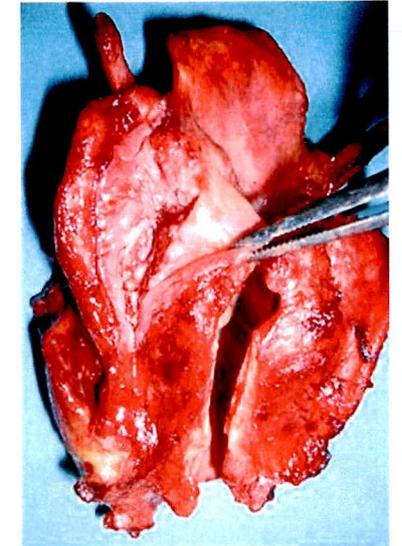
57 50歳の男性

主訴：頸部腫瘍

病歴：3か月前より頸部に30 mm × 40 mm大の腫瘍を自覚したが放置していた。最近嚥下時の痛み、血痰を伴うようになったため受診した。手術の摘出検体を提示する。

誤りはどれか。

- a 舌骨より下方を摘出した。
- b 主病変は右側の下咽頭である。
- c 甲状軟骨は摘出した。
- d 輪状軟骨は摘出した。
- e 本患者には永久気管孔が設置されている。



手術の摘出検体

58 18歳の男子。2日前より排尿時痛と尿道不快感、多量の尿道分泌物を認め、当院を受診した。尿検査では膿尿と尿潜血を認めた。1週間前に異性と性行為を行ったとのこと。

この患者に行うべき治療はどれか。

- a 膀胱洗浄
- b 経過観察
- c 抗菌薬投与
- d 尿道カテーテル留置
- e 抗菌薬含有軟膏製剤

59 60歳の女性。健診で異常を指摘され来院した。飲酒歴や輸血歴、常用薬はない。意識は清明。身長158 cm、体重74 kg。腹部は平坦、軟で、肝・脾は触知しない。血液所見：赤血球310万、Hb 10.9 g/dl、Ht 31%、白血球4,200、血小板9.7万、PT 68%（基準80~120）。血液生化学所見：HbA1C 6.8%（基準4.3~5.8）、アルブミン3.3 g/dl、IgG 1,614 mg/dl（基準739~1,649）、IgM 82 mg/dl（基準46~260）、総コレステロール122 mg/dl、トリグリセリド140 mg/dl、AST 84 IU/l、ALT 98 IU/l、 γ -GTP 62 IU/l（基準8~50）。免疫学所見：HBs抗原・抗体陰性、HBc抗体陰性、HCV抗体陰性、抗核抗体陰性、抗ミトコンドリア抗体陰性。腹部超音波検査で肝表面の凹凸不整、肝腎コントラストの明瞭化および軽度の脾腫を認める。

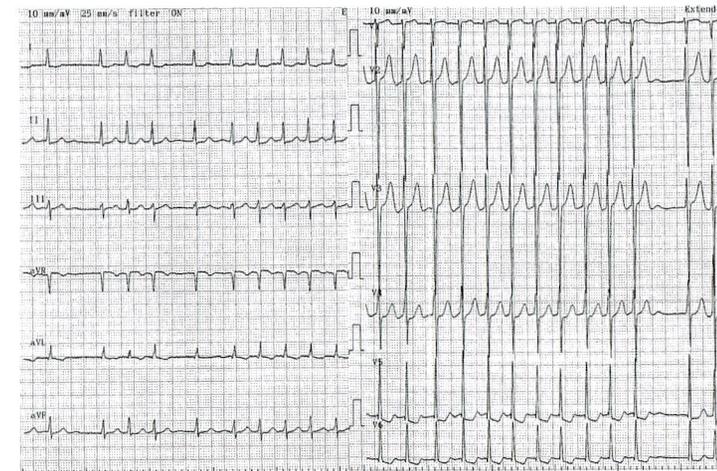
最も考えられるのはどれか。

- a 単純性脂肪肝
- b 自己免疫性肝炎
- c 原発性胆汁性肝硬変
- d 特発性門脈圧亢進症
- e 非アルコール性脂肪性肝炎

60 65歳の男性。夜間に出現した胸部不快感を主訴に来院した。5年前に高血圧を指摘されたが、運動療法を行っているのみで薬物は内服していない。他に心血管系の疾患を指摘されたことはない。来院時、意識清明、脈拍88/分、不整、血圧126/80 mmHg、心音呼吸音異常なし、下腿浮腫なし。来院時に記録された12誘導心電図を示す。

本症例の心調律を正常化することが可能な薬物はどれか。

- a アトロピン
- b ベラパミル
- c リドカイン
- d エナラプリル
- e ピルジカイニド



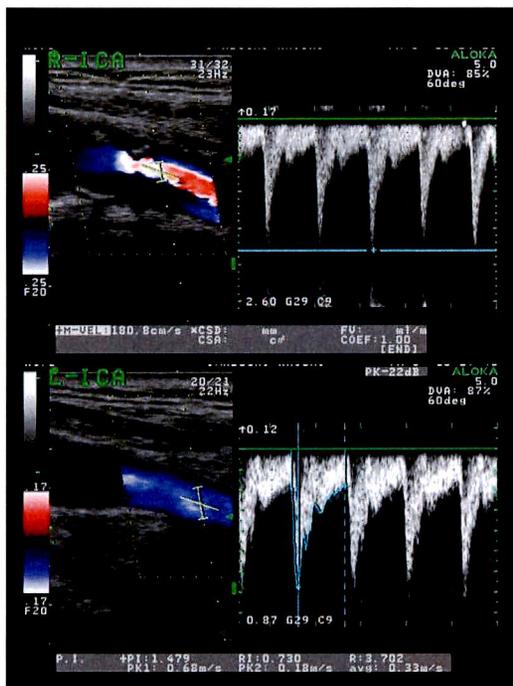
12誘導心電図

61 55歳の男性。会社検診で、血圧148/92 mmHg、血液生化学検査で総コレステロール258 mg/dl、トリグリセリド160 mg/dl、空腹時血糖120 mg/dl、HbA1c 6.2%を指摘された。テレビを見ていたところ、突然目の前が真っ暗となりテレビの画面が見えなくなった。目をこすったり、左右の目の見え方を確認したところ、右眼のみ見えない状態であったが、しばらくすると霧が晴れるように見えるようになった。他の症状はなく、翌日眼科を受診したが異常なしと言われ、神経内科を受診した。

診察時、神経所見は異常なく、頭部MRI上も異常所見を認めなかったが、頸部に血管雑音を聴取した。頸動脈超音波所見を示す。

今後の方針で正しいのはどれか。

- a 入院し抗凝固薬を開始する。
- b 入院し抗血小板剤を開始する。
- c 外来通院で抗血小板剤を開始する。
- d 外来通院で生活習慣病のコントロールを開始する。
- e 入院しt-PA<tissue plasminogen activator>を開始する。



頸動脈超音波所見

62 35歳の女性。3か月前から早朝の尿がコーラ色をしていることに気が付いた。自然軽快したために放置していたが、1週間前より同様の症状が認められたために、当院を受診した。身長153 cm、体重49 kg、体温36.8℃。眼瞼結膜に貧血あり、眼球結膜に黄染を認める。腹部に肝脾腫は認められない。血液所見：赤血球320万/μl、Hb 9.4 g/dl、Ht 29.4%、白血球4,500/μl、血小板32.2万/μl。生化学所見：総蛋白7.1 g/dl、アルブミン4.3 g/dl、尿素窒素19 mg/dl、クレアチニン0.71 mg/dl、AST 96 IU/l、ALT 7 IU/l、LD 2,255 IU/l (基準176~353)、総ビリルビン2.7 mg/dl、直接ビリルビン0.4 mg/dl、ハプトグロビン≤10mg/dl。

本疾患について正しいものはどれか。2つ選べ。

- a 血栓症を合併することがある。
- b 重症例には脾臓摘出術が行われる。
- c Sugar-Water試験とHam試験は共に陽性である。
- d CD55、CD59の欠如は、赤血球のみに認められる。
- e 夜間に血液がアルカリ性になることで、溶血発作が起こりやすい。

63 喫煙歴のない57歳の女性が繰り返す発熱、咳、労作時呼吸困難を主訴に来院した。入院すると症状は改善し、退院すると増悪する。

気管支肺胞洗浄液 (BALF) 所見で合致するのはどれか。

- a 好中球 70%
- b 好酸球 30%
- c リンパ球 80%
- d マクロファージ 90%
- e 分葉核リンパ球 25%

64 72歳の男性。意識障害のため搬入された。1年前から高血糖を指摘されていたが特に何もなかった。1週間前から風邪気味であった。2、3日前から咳と微熱とを認め、前日から食事摂取が不良となった。意識レベルはJCS II - 30。身長172 cm、体重52 kg。呼吸数16/分。脈拍98/分、整。血圧104/88 mmHg。口唇粘膜と舌の乾燥を認める。心音と呼吸音とに異常を認めない。尿所見：蛋白(-)、糖3+、ケトン体(-)。血液生化学所見：血糖760 mg/dl、HbA1c 9.4%。抗GAD抗体陰性。

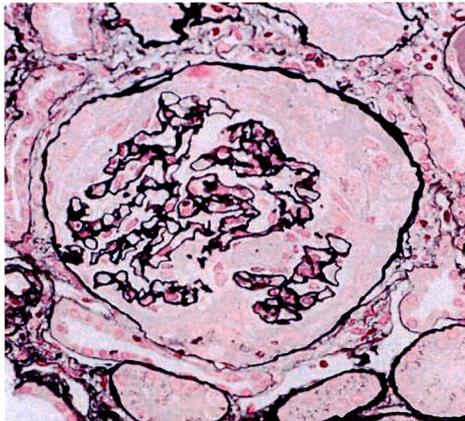
この患者の予想される検査結果はどれか。2つ選べ。

- a Na 158 mEq/l
- b 尿比重 1.011
- c 動脈血pH 7.15
- d PaCO₂ 30 Torr
- e 尿素窒素 46 mg/dl

65 72歳の男性。血痰を主訴に来院した。1か月前より咳嗽と微熱を自覚し、市販の総合感冒薬を内服していた。3日前より痰に血が混じるようになった。意識は清明。体温37.4℃。脈拍88/分、整。血圧144/90 mmHg。両下肺野に乾性ラ音を聴取。両下腿に浮腫を認めた。尿所見：蛋白2+、潜血3+、沈渣：赤血球30-40/1視野、白血球8-10/1視野、顆粒円柱陽性、赤血球円柱陽性。血液所見：赤血球310万、Hb 10.0 g/dl、Ht 28%、白血球8,500、血小板35万。血液生化学所見：総蛋白6.9 g/dl、アルブミン3.2 g/dl、尿素窒素48 mg/dl、クレアチニン3.8 mg/dl。腎生検PAM染色標本を示す。蛍光抗体法では免疫グロブリン、補体の局在を認めなかった。

この患者の検査所見として考えられるのはどれか。

- a ASO高値
- b 補体価低値
- c MPO-ANCA陽性
- d 抗dsDNA抗体陽性
- e 抗糸球体基底膜抗体陽性



腎生検PAM染色標本

66 33歳の男性。下血を主訴に来院した。中学生の頃より、有痛性の口腔内の潰瘍がしばしば出現している。また、虫に刺された部位が大きく腫れることが多い。1年前に陰囊に潰瘍が出現した。1週間前から右下腹部痛と下痢が続き、3日前から下血が出現した。左下腿に結節性紅斑を認める。血液所見：赤血球235万、Hb 7.3 g/dl、Ht 21%、白血球7,800、血小板31万。血液生化学所見：尿素窒素26 mg/dl、クレアチニン1.2 mg/dl。免疫学所見：CRP 1.5 mg/dl。回腸末端部の内視鏡写真を示す。

この疾患でみられるのはどれか。

- a ACE上昇
- b HLA-B27
- c 精巣上体炎
- d 間質性肺炎
- e 乾酪壊死を伴う類上皮細胞肉芽腫



回腸末端部の内視鏡写真

67 65歳の男性。3か月前より食欲不振・体重減少が出現し、近医で上部内視鏡検査を施行した。胃病変を指摘され生検で癌細胞が証明された。これまで嘔気・嘔吐症状があった。胃の内視鏡写真を示す。外来初日の採血結果を示す。これまでに高血圧、糖尿病で内服治療およびインスリン治療（1日35単位）を行っている。

血液データ：白血球7,600、Hb 10.2 g/dl、血小板20.1万、アルブミン2.8 g/dl、ALP 202 U/l、BUN 10 g/dl、r 0.71 mg/dl、CEA 4.6 ng/ml（基準：5.0 ng/l以下）、CA19-9 38 U/ml（基準値37 U/ml以下）、HbA1c 8.4%

標準治療として考えられるのはどれか。

- a 術前補助化学療法および胃部分切除術
- b 腹腔鏡下幽門側胃切除術、Billroth I法再建術、D1リンパ節郭清術
- c 開腹幽門側胃部分切除、Roux-en-Y法再建術、術後免疫療法
- d 周術期補助化学療法および開腹胃全摘出術、Roux-en-Y再建術、D1リンパ節郭清術
- e 開腹幽門側胃切除術、Billroth I法再建術、D2リンパ節郭清術および術後補助化学療法



内視鏡写真

68 日齢6の新生児。在胎39週に正常頭位分娩にて出生。生下時体重は2,650g、体長は47cm、アプガースコアは1分値が7点、5分値が8点であった。生後、呼吸障害はなかったが筋緊張低下と哺乳力微弱を認め経管栄養となっている。全身の皮膚は色白で、手足が小さく、小陰茎と両側停留精巣を認める。

正しいのはどれか。

- a 高身長になる。
- b 性早熟症を合併する。
- c 知能発達は正常である。
- d 食欲の異常亢進をきたす。
- e 猫の鳴き声のような甲高い声で泣く。

69 38歳の女性。会社員。0経妊0経産婦。体外受精・胚移植で単胎を妊娠した。妊娠経過に異常を認めず、妊娠35週、妊婦健康審査のために来院。血圧122/62mmHg、尿所見：蛋白(±)、糖(-)、浮腫(-)。1日に5~6回の腹部緊満感を認めているが、子宮口は閉鎖。

事業者の対応として、正しいのはどれか。

- a 妊婦健康審査の受診日は、欠勤とした。
- b 不妊治療のための休業は、病欠として処理した。
- c 産前休暇を申請されたが、経過が順調なので却下した。
- d 妊娠12週までは、流産の可能性が高いので、休業にした。
- e 母性健康管理指導事項連絡カードの記載に従い、負担の大きい作業を制限した。

70 48歳の男性。高所での高圧線作業中、地面に横たわっているところを発見された。意識は無く、右前腕と下腹部に熱傷創があり皮膚は黒く焦げていた。

あてはまらないのはどれか。

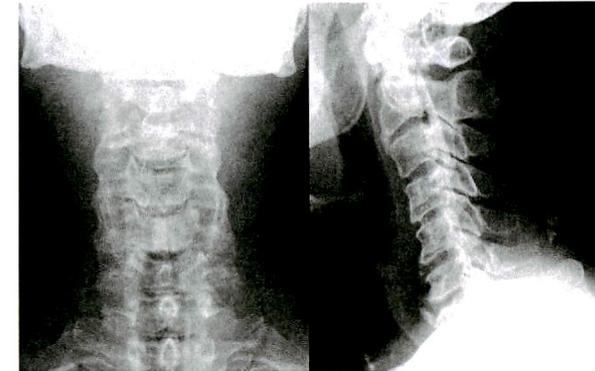
- a 心電図異常がみられる。
- b 専門施設での加療を要する。
- c 呼吸不全で死亡することがある。
- d 死因の一つとして転落死がある。
- e 1週経過すればショック状態となることは無い。

71 63歳の男性。1か月前より徐々に四肢のしびれ、両手の使いづらさ、歩行時のふらつきを認めた。

頸椎エックス線写真を示す。

最も考えられる疾患はどれか。

- a 腰椎椎間板ヘルニア
- b 頸椎後縦靭帯骨化症
- c 頸椎椎間板ヘルニア
- d 頸椎症性神経根症
- e 転移性脊椎腫瘍



頸椎エックス線写真

72 85歳の男性。2階屋根で作業中転落。庭にあった鉄柵が写真のように刺さった状態で搬送されてきた。

救急外来で行わないのはどれか。

- a 抗菌薬投与
- b 鉄柵の切断
- c 神経学的診察
- d FAST（超音波検査）
- e 破傷風トキソイド筋注



写真

73 38歳の男性。多飲と多尿を主訴に来院した。5か月前からコップ1、2杯の水を飲んでも、すぐに喉が乾くようになった。夜間に何度も尿意を催すため、睡眠不足になっているという。身長170 cm、体重60 kg。体温37.0℃。呼吸数20/分。脈拍72/分、整。血圧118/76 mmHg。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。尿所見：尿量4,500 ml/日、尿比重1.001（基準1.005～1.030）、糖（-）。

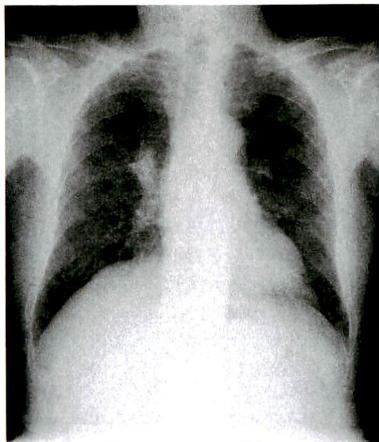
次に行う検査として適切なのはどれか。2つ選べ。

- a 視野検査
- b 頭部MRI
- c 状態特性不安検査
- d 経口ブドウ糖負荷試験
- e 脳血流シングルフォトンエミッションCT（脳血流SPECT）

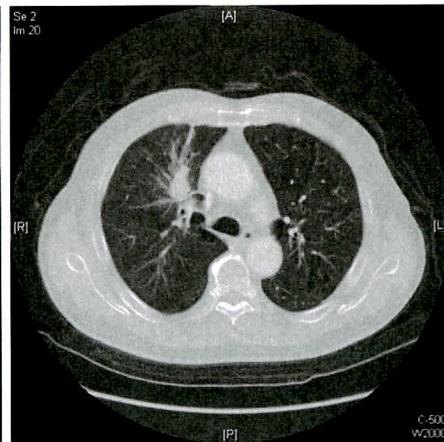
74 65歳の男性。検診胸部エックス線写真で、異常影を指摘され来院した。喫煙20本/日を40年間。身長165 cm、体重58 kg。体温36.5℃。脈拍64回/分、整。血圧128/98 mmHg。心音と呼吸音とに異常を認めない。血液所見：赤血球360万/ μ l、白血球6,400/ μ l、血小板35万/ μ l。血液生化学所見：AST 40 IU/l、ALT 32 IU/l。CRP 0.8 mg/dl。胸部エックス線写真と胸部造影CTを示す。入院後の精査で肺腺癌と診断されたが、他臓器に転移を示唆する所見を認めなかった。心機能、呼吸機能を含めた全身状態は良好である。

適切な治療法はどれか。

- a 経過観察
- b 肺切除術
- c 化学療法
- d 放射線治療
- e 化学療法+放射線治療



胸部エックス線写真



胸部造影CT

75 58歳の男性。会社で会議の予定を忘れてたり、外出先で訪問先に行けなくなったりしたために妻と来院した。朝は自ら着替えて会社にはきちんと出勤しているという。最近のニュースを聞いても「さあ、何がありましたかね。あまり注意していないので」と話す。立方体の模写は不完全であった。漢字で住所を書かせるとききちんと書けない文字がある。文章の復唱は可能であった。

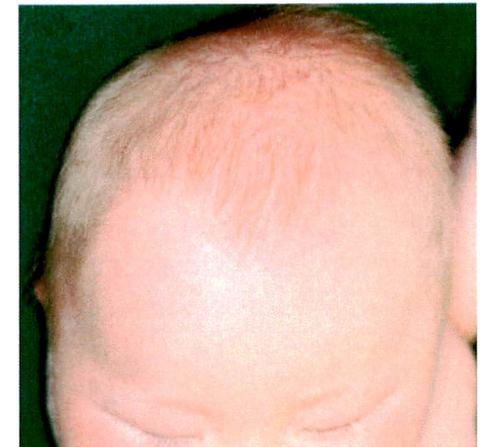
認められる症状はどれか。2つ選べ。

- a 失行
- b 失語
- c 構成障害
- d 注意障害
- e 空間失認

76 2か月の乳児。39週、正常分娩にて出生し、身長、体重の増加は正常である。両親は健康で皮膚疾患の既往はない。祖父母に血族結婚あり。母親が皮膚の色が白いことを気にして受診した。頭髪と眉毛の写真を示す。体幹に蒙古斑を認めない。光に反応はあるが追視はない。

この患児について正しいのはどれか。

- a 針反応が陽性である。
- b カフェオール斑が増加する。
- c ニコルスキー現象が認められる。
- d 診断には硝子圧法が有効である。
- e 皮膚癌を発症する可能性が高い。



頭髪と眉毛の写真

77 21歳の男性。本日起床時から特に誘因もなく突然激しい回転性めまいに襲われ、持続するため来院した。吐気が強く、嘔吐したという。聴力障害はなく、耳鳴り、耳閉塞感もなかった。手足のしびれ、舌のもつれなどめまい以外に神経学的異常所見は認められなかった。鼓膜所見には、中耳炎の所見はなかった。既往症に特記すべきことはないが、2週間前に風邪をひいたという。今回が初めてのめまい発作である。

本症例の診断として最も疑われる疾患で、予想される検査所見はどれか。

- a 眼振は頭位の変換で誘発され、純回旋性で、眼振に潜伏時間、減衰を認める。
- b 眼振は定方向性の水平回旋混合性で数時間でおさまる。
- c 眼振は方向交代上行性頭位眼振で、その眼振は2週間程度続く。
- d 温度眼振検査では一側の高度半規管麻痺を認める。
- e ロンベルグ検査 (Romberg's test) は陰性である。

78 17歳の女性。38.5℃の発熱と右背部痛を訴えて外来を受診。このような症状は幼児期から何度か経験しているとのことであった。腹部超音波検査で右腎の軽度な水腎症が認められ (右腎臓超音波検査画像)、そののちに行った排尿時尿管膀胱造影ではgrade IIIの膀胱尿管逆流が認められた。

正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 膀胱尿管逆流の診断では排尿時膀胱造影は禁忌である。
- b 膀胱尿管逆流では肉眼的血尿を伴う腎疝痛を起こすことが多い。
- c 水腎症が進行する膀胱尿管逆流に対しては尿管膀胱新吻合術を行う。
- d 先天性水腎症の原因として腎盂尿管移行部狭窄がもっとも頻度が高い。
- e 尿管閉塞による水腎症が続くと腎盂内圧上昇とともに腎血流が増加する。



右腎臓超音波検査画像

79 25歳の男性。両眼の視力低下を主訴に来院した。数年前から、季節に関係なく眼のかゆみが続いている。顔面はびまん性に潮紅しており、頭部皮膚に色素沈着を認める。視力は右0.9(矯正不能)、左0.8(矯正不能)。細隙灯顕微鏡検査で、角膜に異常はなく、水晶体の混濁を認める。眼底検査で、右の眼底周辺部に限局性の網膜剥離を認める。

合併が疑われる疾患はどれか。

- a 皮膚筋炎
- b 成人Still病
- c 強直性脊椎炎
- d アトピー性皮膚炎
- e 全身性エリトマトーデス

80 4歳の男児。幼稚園に通っている。昨日から全胸部、背部に発疹が出現した。本日頭部から臀部にかけて広がり、発熱も認められたため受診した。手掌や測定に発疹は見られず、咽頭口腔粘膜に異常は見られない。(写真参考)

疾患について正しいのはどれか。

- a 成人では腭炎を合併しやすい。
- b 患部はポピドンヨードで消毒する。
- c 発疹がすべて消失してから登園する。
- d 発疹以外からはウイルスは伝播しない。
- e 免疫不全者には抗ウイルス薬の予防投与が行われる。



写真